

# 赤岡町編

参加者  
34人

## 赤岡保健センター

**橋梁の耐震診断について**  
香宗川に7つの橋が架かっているが、地震の際、壊れたら赤岡町は陸の孤島になる。橋の補強に取り組んでほしい。

A

今後老朽化する橋梁が増大するため、予防・保全的な修繕や架け替えを計画的に行うこと、橋梁の長寿命化と交通安全の確保、橋梁の維持に要するコスト削減を図ることを目的に、平成19年度から21年度にかけて、市道に架かる全橋梁の損傷度調査を実施しました。

地震発生時の避難路や輸送路の確保は重要なことでもありますので、どの橋梁の耐震化をどの順位で行うのかなどを考慮した修繕計画を関係部署と協議し策定していきます。

## 自治会の設立について

自治会への補助金は、立ち上げ時一回は補助率100%ということだが、申請時に半分しか支払われず、後は事業がすべて終了してからの支払いになっている。経費を誰かが立て替えなければいけないのであれば、設立するのが非常に難しくなる。

## まちの活性化

夜須町が活力ある町になっていくように、考えてもらいたい。

A

今、夜須町では、ヤ・シイパークを中心にしたまちづくりを行っています。香南市地域情報センターでは香南市の魅力を発信しています。また、マリンスポーツセンターでは、マリンスポーツの振興を通して交流人口の拡大を図っております。さらに、南国市、香美市、高知市と協力しながら観光資源を活かした広域での滞在型観光も進めております。

## 地域を愛する学校教育を

県外への進学や就職など県外に出て行くのではなく、人を定着させるためには、教育の面からも地域を愛するような学校教育に取り組んでもらいたい。

A

大学進学もほとんどの人が県外志望、高卒でも就職する人の半分は県外へ出ています。それは、受け入れる側の産業が弱いという面もあると思います。

今、学校教育の中でも、子どもたちに地域の良さを教えていこうと小学校3・4年生を対象にした「香南市にはこういいところがある」「こういわずばらしい伝統がある」といった地域版社会科の副読本を作成中です。地域に住む子どもたちに、自分たちの地域の良さを認識付けていくことが定住につながるのではないかと考えております。

A

一年度に限り補助率は100%です。補助金は一般的に事業がすべて終了した後に支払っておりますが、平成23年度から申請を受け交付決定後に50%、10月以降に2回目の50%を概算払いで交付し、3月に精算する方法となりましたので、地域の皆さまに、より活用していただけるようになりました。

## 少子化対策について

現況の政権与党の混乱振りを見ると今後の子育て支援に不安を持つてしまふ。子を持つ親、特に母親が安心して就労し子育てができる環境整備を行うことにより少子化にも歯止めがかかる。最優先課題として取り組んでほしい。

A

子育て支援策として、平成23年度からは赤岡・香我美おれんじ・夜須保育所に加え、佐古保育所(野市町)でも0歳児保育を開始しました。費用面では、保育料の多子世帯保育料等軽減事業と妊婦・出産までの14回・乳児病院での2回と集団検診の検診費、小学校6年生までの医療費の無料を実施しております。

## 夜須町編

参加者  
50人

## 市政懇談会場において回答できなかった事項

野市町 香我美町

### 災害時に備えた情報

(要援護者)の共有を

要援護者台帳は作成されていると思いますが、個人情報ということ、そのまま眠っている状態になっている。消防団、自治会、民生委員が情報を共有できるように早く進めてもらいたい。

A

民生委員さんに協力いただき、要援護者と要支援者の台帳ができております。この情報は、平成23年6月開催予定の自主防災組織連絡協議会で、災害時救助に活かせるよう共有できる情報の範囲を協議し活用していきます。

## 健康を守る会の活動について

野市地区の健康を守る会は、一斉清掃だけの活動になっているので、地域の健康を増進させる取り組み等ができるようにしてほしい。

A

健康づくりは地域づくりにつながり、各地域で取り組んでいただくことが大事だと考えています。合併後、地域に健康推進員を委嘱し、地域での健康づくりにご協力をいただいております。

## 要援護者の避難対策は？

病気や高齢などの要援護者で、避難場所まで10分や15分で行くことができない場合の対策をどのように考えているのか。

A

今年の6月に自主防災組織を中心にご自助・共助・公助に分けて、避難計画を考えたと思っています。

## 津波の浸水予想について

現在のハザードマップは、安政の南海地震の時を参考に津波の予想地域を出しているが、東海・東南海・南海地震が同時に発生した宝永の南海地震の場合を参考にした防災を検討しないのか。

A

今の防災マップは、江戸末期の安政地震のデータをモデルに作っております。宝永地震を参考にしたのは、現在、国で23年度に検討し、24年度に対策を立てる計画と聞いています。また、東日本大震災が想定外の地震津波であったことにより、この調査結果も含めた作業となるため、データが出てくるのはまだ何年か先になるうかと思えます。これらのデータが出てくる前に、市単独で調査を行うというのは非常に困難です。当面の間は、現行の想定をベースに対策を講じていき、その後新たな想定が出された場合は、速やかに対応していきます。

## 税金の負担軽減について

市へ納める税金や保険料(県市民税、固定資産税、国民健康保険、介護保険料、後期高齢者保険料)などが高いように思う。どのように考えていますか。

A

県市民税は、平成19年から税源移譲により所得税(国税)の税率が下がり、県市民税の税率が上がっています。固定資産税は、地価の下落調整もしていますが、状況によっては、上がることもあります。後期高齢者保険料は被保険者の一人一人に負担をさせていただき、保険料は高知県で統一されている状況です。介護保険料は、介護保険の利用状況により3年毎に見直し、現在は前回より低くなっております。質問にありましたように、色々な負担があります。なるだけ市民に負担をかけないように国や県へ要望をしていきます。

※国保税については、22ページに掲載の『5月のコクホ』をもって回答いたします。

※注1…18歳に満たない児童が3人以上いる世帯で、第3子以降の児童のうち、保育所・幼稚園・届出認可外保育施設に通所等をしている3歳未満の児童を対象とし、保育料等を減額又は届出認可外保育施設利用料を補助する事業

※注2…「自助」とは、自分の手で自分・家族・財産を守る備えと行動。「共助」とは、地域で協力して、地域を守る備えと行動。「公助」とは、行政機関(国・県・市・警察・消防など)、ライフライン各社を始めとする公共企業の応急対策活動

貴重なご意見をありがとうございました。併せて、開催案内の周知が不十分で、参加をしていただけなかった皆さまにお詫び申し上げます。今回の市政懇談会は、香我美町の6地区を始めとして、野市町5カ所、吉川・赤岡・夜須町のそれぞれ1カ所で開催し、総参加人数は地区担当者職員を含め385人でした。

いただきましたご意見等につきましては市職員で共有し、対応、改善に努めるとともに今後の職務に活かしたいと考えています。皆さんの声を心にとどめ、職員一同、安全で安心して暮らせる香南市を目指し行政運営に取り組んでまいります。